

日時：2025 年 6 月 20 日（金）

講師：草壁克己（崇城大学名誉教授）

講演タイトル：廃棄物を用いた二酸化炭素固定化プロセス

実施場所：理工学部 9 号館 6F セミナー室

講演内容（簡単に）：再生可能エネルギーの活用には太陽エネルギーの利用が唯一の現実的な選択肢であり，触媒を利用してバイオディーゼル副産物であるグリセロールをエピクロロヒドリンに変換し，これを二酸化炭素と反応させ，環状炭酸塩であり溶剤・可塑剤・電解液などに利用可能なクロロプロピレンカーボネートを合成しています。反応効率向上のために触媒として用いた N-ドーパカーボンの N 源としてのタンパク質含有量が低く，多孔性の高い触媒が有効であるという結論に至っています。定年退職されるまで 37 の科研費の採択に至っており、興味深い講演でした。

写真：

